



# 校長だより

呉市立市阿賀小学校  
安宗 誠

## 詩人 谷川俊太郎さんを偲んで…

詩人 谷川俊太郎（たにかわしゅんたろう）さんが先日亡くなりました。谷川俊太郎さんと言えば、その作品が小学校国語教科書でも長年採用され、「スイミー」（レオ・レオ二作を翻訳）や詩「生きる」はあまりにも有名です。

子供達にとっても馴染みの深い谷川俊太郎さんを偲んで、数々ある作品の中から、次の3編の詩を阿賀っ子にお昼の放送で読み聞かせをし、合わせて、私の解釈を伝えました。

1つ目は、「**天使、まだ手探りしてる**」という詩。

私たちは見えない力に守られて生きています。しかし、その見えない力も「自分のところにごみがたまってしまっている」とときにはじっとかくれて守ってくれないので、まっすぐ正しく生きていきましょうということではないでしょうか。

2つ目は、「**黄金の魚**」という詩。

私たちは、みんな例外なく他の命をいただきながら、自分の命をつなごうとしています。自分が順調だと思うときでも決して有頂天にならず、どんな小さなことにも感謝の気持ちをもち続けましょうということではないでしょうか。

3つ目は、「**成人の日に**」

人が人の中で人として生き抜くためには、子ども、大人に関わらず、日々、欲に負けず、まわりを思いやり、正しい道を歩み続けていきましょうということではないでしょうか。

### 児童朝会の様子



明後日のもちつき大会に向けて、これまで中心となって取り組んできた5年生が、これまでの取組の様子やもちつき大会当日の進め方について説明してくれました。

もちつき大会の取組1つをとってみても、谷川俊太郎さんの詩と大いにつながりますね。もち米がめでたく収穫できたということは何の・だれのおかげなのでしょう？  
もちつき大会ができるのは・・・？  
つまり、自分が生きているその瞬間その瞬間に何を思いどう生きていくのかということが、結局は自分自身の幸せを決めることになるということなのでしょうね、きっと。